

船橋市社会科セミナー通信 第131号

8.4土 報告

勉強会会場はいつもの「プラウドタワー船橋」。

今回の出席者は、講師の皆川征夫先生、会場担当で事務局長の大野 肇先生(習志野四中)・佐藤一巳(前原小)・大久保徹(南本町小)・谷川一仁(南本町小)・小野正人(習志野台中)・富澤眞也(大穴中)・石原智広(芝山中) 豊田裕美(大穴小)・鎌形順一(行田中)の各先生と

会長の池田(習志野台中で初任者指導)の合計11名。今回は目標の10名に達することができました。

併せて今回で、24関中社研&千社研に向けた「授業力向上勉強会」の30回目を行いました。



皆川名誉会長講演:現在の子どもたちをどうとらえるか

皆川征夫先生

毎年8月は皆川征夫先生に社会科の根本について迫るご講演をいただくのが恒例となっておりますが、今年も、皆川先生にはお忙しい中を無理をお願いして、ご講演をいただきました。

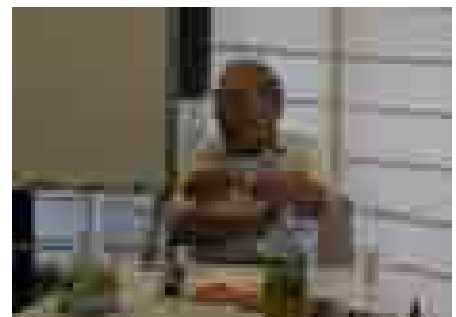
(以下は池田義光がまとめたものですので分かりにくい点などありましたらご容赦ください。)

【はじめに】

○大津でのいじめ問題をきっかけに学校や教育委員会に対して厳しい目が注がれている。「教育はこのままでいいのか」⇒それが単なる教育批判だけでなく、教育の向上のために教師の待遇を改善し優れた人材を確保・育成しようというような考えにつながるならよいのだが。

○私は現代社会の様相に危機意識を持っている。世界経済の先行きに対して見通しが立たない。生産が減少し、投機が拡大している。産業の衰退が著しい。日本経済も、テレビなどの不調から電気業界は厳しい。自動車業界が駄目になれば総崩れの様相を呈す。日本は民主主義が定着しているようだが、疑問がある。自治会の運営には役員の独断専行が横行している。

○こんなとき社会科教師は時局をどうとらえているのか。社会科教師は常に時局に対して高い見識を



持たねばならない。例えば、原子力とエネルギーの問題をどうとらえているか？福祉と税の問題をどうとらえているか？それらの問題に対し、教師の高い見識のもとで、子どもたちにどのように認識させればいいのかを考えなければならない。

○教師は忙しすぎる。なんとかしてゆとりの時間を確保しなければならない。中学校教師の忙しさの半分以上は部活の指導だろう。私は朝練はやらなかった。学級だよりも必要以上には出す必要がない。子どもにかかわる時間を学級だよりも費やすべきではない。私は学校に教師の印刷やHPの管理など様々な忙しさを減らし教師を助ける専門の事務官が必要だと考えている。

○その分、教師は、常に勉強しなければならない。常に教材研究するとともに常に子どもを見る目を鍛えなければならない。今回は、「子どもを見る目」にかかわる話をしたい。

1. 学ぶことを嫌悪し、学びから逃げる子どもたち

(1)今の子どもたちにとって教育は、受ける権利から受けさせられる義務へと転換

(2)子どもたちの実力は

① I E A (国際教育到達度評価学会調査)

中学2年生の校外学習の時間 世界平均 3.0 時間 日本平均 2.3 時間

②最近見た資料では、今の高校生の6割の校外学習時間が0

③全国大学生 4600 人を対象とした英語学力調査では、英検 3 級(中 3 程度) 4～5 割

④子どもや親に学力低下が意識されていない

⑤「矛盾」を「無純」、「精神」を「精心」と書いて平気な大学生

⑥本は読むが分からないことがあっても平気な若者 (辞書を引かないで飛ばして読む)

⑦「知識がない。学力がない。思考力がない。」と言われても不快と思わない若者。

2. 消費者(買い手)としての子どもたち

(1)俺様化する子どもたち

授業中私語をする。授業を無視している。喫煙する。注意すると「うるせえよ。」「関係ねえよ。」「そんなことしていねえよ。」「ちゃんと聞いてるよ。」と平然としている子どもたち。こうした子どもたちが増えてきたのはなぜか？

(2)子どもは「消費者(買い手)」として育って来ている。

かつては家庭では家事をとおして生産者としての立場を知って成長した。しかし、今、家庭に家事はほとんどない。子どもは早くから生産者としての立場を獲得することなく、消費者(買い手)としての経験を積み重ね、「消費者(買い手)」として成長する。子どもは早い時期から買い物を体験する。子どもは買い手として尊重される。子どもは「お金の全能性」を知って育つ。また、少子化社会では少数の子どもに多数の大人がお金を与えるので子どもはお金持ちである。そおして育った子どもは学校においても「消費者(買い手) = お客様」の意識なのである。

(3)1年生の子どもたちに平仮名を教えていたら「先生、これ何の役に立つの？」と質問された。これは消費者(買い手)が商品の価値・意味・有用性を理解して買おうとする行動なのである。

(4)子どもにとって、教室で沈黙し、話を長く聞くことは、忍耐であり苦役である、子どもはこの苦役や忍耐を貨幣の代わりに支払っているのだから、その対価として教師からどのような財やサービスを得られるのかという「等価交換」の意識を持つ。消費者(買い手)となった子どもたちは、

自らの苦役・忍耐に相当する価値ある商品かどうか、買う商品を吟味するのである。

3. 教育の逆説

- (1) 教育の現場において、今や「消費者(買い手)」となった子どもたちの「主体性」や「自己決定」に教育を委ねていけばどうなるか。「お客様」であり「俺様」化した子どもたちは、教師の提供するサービスになにかと文句をつけて不満をかこち、思い思いに教育の場から、学ぶことを嫌悪し逃避してしまうことを手をこまねいて認めてしまうことになりかねない。こうした状況で、安易な「主体性」や「自己決定」を認めることは、教育の放棄につながるのである。
- (2) 教師のすべきは、教材研究と教育指導論に裏打ちされた確固たる教育を提供することで、消費者(買い手)化した子どもたちをしっかりと教育の場に引き留めることである。決してその場だけの「安売り」や妥協をしてはならない。
- (3) 教育の逆説は、教育を受益する人間が、実はどのような利益を受けているのかを、ある段階をえるまで、あるいはすべてが終了するまで認識することができないというところにある。だからこそ教師の役割の重要性があるのであり、安易に子ども任せをすべきでない理由がある。

4. クレイマー

- (1) 今日の社会では、なぜクレイマーが増えたのか？
小さい時から消費者(買い手)として成長して、そのまま大人になってしまう例が増えた。今日のクレームは消費者(買い手)としてのクレームである。
- (2) クレイマーの行動
今日の社会では「先に文句を言ったものが勝ちになる」ことが多い。そのことを幼児期から消費者(買い手)として鍛えられた者は、誰よりも早く「被害者」としてのポジションを先取する能力に長けて育つ。「私は不快に耐えている存在」であり、「あなたは私を不快にしている存在」であるという図式を瞬時に作り上げようとする。

5. 学びは市場原理によって基礎づけることはできない

以上述べてきたように、今日の子どもたちは、消費者(買い手)化しているが、それをそのまま認めて、教師が教育サービスの売り手化して、市場原理のように、学びを消費者の自己決定に安易に委ねるようなことをしてはならない。そうすることは教育の放棄につながるとの自覚が必要である。

6. 行動指針として

行動の指針として①外在的なもの(権威・名声・財産・地位など)と②内在的なもの(興味・関心・内発的な動機など)がある。子どもたちの②内在的なもの(興味・関心・内発的な動機など)ばかり重視すると、子どもたちの好き勝手なことばかりになってしまい、社会的な有用なものが見失われる傾向がある。従って、①外在的なもの(権威・名声・財産・地位など)をもっと重視すべきである。

7. 未来を売り払う子どもたち

- (1) かつて、子どもたちの将来へのパイプは順調に機能していた。子どもたちはその能力や努力に見合った学校や職場が用意されていた。ところがそのパイプが亀裂し、順調に機能しなくなった。

(2) こうした状況下で、2 極化とリスク社会化が進んだ

① 2 極化：努力が報われた人(勝ち組) と報われない人(負け組) との間にはっきりとした階層格差が生じた

② リスク社会：社会の不確実性が増大し、個人としての将来の生活予測可能性が低下した。

(3) こうした状況下で「21 世紀日本の構想懇談会」が発足し、「自己決定論・自己責任論」を展開した。

(4) 学ぶ意義や役割が子どもたちに委ねられたらどうなるか？⇒将来を諦めて努力しなくなる子どもたちや未来を売り払う子どもたちが出てくる。従って安易な「自己決定論・自己責任論」は戒めなければならない。

[まとめ]

子どもたちをめぐる社会のこのような状況を踏まえつつ、教師は子どもたちに対して、安易な「自己決定論・自己責任論」に陥ることなく、子どもの前に、学ぶ意味や価値を明確に指し示し、豊かな教材研究に裏打ちされた魅力的な授業を日々展開しなければならない。教師は、国の根本にかかわる「人間づくり」というすばらしい仕事をしているとの自覚の基に実践を積まなければならない。

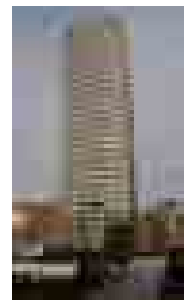
9 月セミナー予定 9 月 22 日(土)

＜勉強会＞は、**プラウドタワー船橋** 1 階入口 **3 時** 集合

1. 知っ得ニュース 7 (池田義光)
2. 若い先生方へ、社会科のスキルアップ (藤木信弘)

※終了後 **船橋駅周辺** で **6:30 頃** から **懇親会** >

⇒出欠席をできれば **2 週間前までに池田宛てにお知らせください**



出欠席の連絡は当方からの問い合わせの前にはいただけると助かります。 ikeyoshi.24@gmail.com

または chi-den...gikou_ikeyoshi@docomo.ne.jp

お知らせ：社会科セミナーのホームページができました

ただいま、ネット上に公開されております。

「次回の社会科セミナーのお知らせ」や「社会科セミナー通信のバックナンバー」「韓国見聞録やベトナム見聞録」も公開されておりますので是非ごらんください。

URLは⇒ <http://syakaika.s98.xrea.com> ですので、直接入力してみてください。

今後は、その HP(ホームページ) から ikeyoshi.24@gmail.com 宛てに出欠席の返事をお願いします。